

イノベーション交流会 実証活動報告

SNS 情報を活用した道路状況把握の迅速化

■ 高速道路運営・保全管理上の課題

ソーシャル・ネットワーキング・サービス(以下、SNS)などで投稿されている画像や動画(外部情報)のうち、高速道路に発生している交通事故など緊急事象を速やかに抽出し状況把握をしたい。

■ 実証技術の概要

SNSなどの外部情報から高速道路関連事象を抽出し、その情報による状況把握及び事象対応の迅速化が図れるかを実証の目的とする。

※2020年1月実証開始

<事故が発生した場合の対応の流れ>



図1 SNS情報の活用イメージ(事故発生時)

■ 現場実証の結果

- ・高速道路に関する SNS 情報(84 件)のうち、1 割(8 件)の情報(交通事故発生時の事故車両の台数、渋滞の発生状況など)は、SNS 情報から検知した。
- ・高速道路上の火災の状況は監視カメラで把握できるが、高架下への影響の有無は SNS 情報から検知した。
- ・同一事象に対する複数の SNS 情報から、複眼的に状況を把握できる。

■ まとめ

- ・道路状況把握の迅速化が期待できる。

■ 今後の取組み予定

- ・SNS情報に該当する場所を高速道路上のキロポストに自動変換する仕組みの構築の実現
- ・SNS情報からの事象検知後の通報機能の構築の実現

■ 先進技術保有企業

株式会社フジミック 他

■ 実証に関する問合せ窓口

保全企画本部 i-MOVEMENT 推進室
(イノベーション交流会 事務局運営)